

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

ひとがすき まちがすき いわさきの子
(知)ともに学び合い、ねばり強く解決していける子を育てます。
(徳)自分も友達も大好きで、心豊かに正直に生きる子を育てます。
(体)心と体の健康を鍛え、自分や人の生命と体を大切にすることを育てます。
(公)「ひとがすき、まちがすき、いわさきの子」をめざし、地域と豊かにかかわり、共に生きる子を育てます。
(開)様々な人々とのコミュニケーションや体験を通して、日本や世界の文化や歴史を学び、社会の変化に対応できる子を育てます。

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

Table with 2 columns: Specific description of skills (e.g., ability to connect with others) and Detailed description of the skills (e.g., ability to communicate and understand others).

中期取組目標

- ◎人権尊重を基盤とし、児童一人ひとりを徹底的に大切に学校づくりを推進します
○自ら課題を見付け、自分なりの考えをもち、他者と協働して解決する、主体的・対話的で深い学びの実現を目指します。
・1年目は、粘り強く課題に取り組み、対話を通して解決していく授業づくりを推進します。
・2年目は、自分の考えを分かりやすく他者に伝えたり、他者の考えを理解したりするコミュニケーション力を高めます。
・3年目は、豊かなコミュニケーションを通して、自分の考えを深化させ、自らのよさに気付けるようにします。
○まちの「人」とのつながりを大切に、豊かな体験を通して、いわさきのまちを愛する心を育てます。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: Focus areas (e.g., Academic improvement) and Specific measures (e.g., Deepening learning through dialogue).

学力向上に関わる本校の状況

豊かにかかわり合い、自分のよさに気付く子どもの育成を目指し、主体的・対話的で深い学びを実現し、確かな言語能力を育む授業づくりを国語科を中心に研究を続けてきた。単元構成や授業展開、言語環境の充実に重点を置き、学校全体でよりよい授業づくりを意識して取り組んできている。特に、豊かにかかわり合い、自分のよさに気付く子どもの授業内での姿を具体化したことで、少しずつ成果が見られている。相手意識・目的意識を明確にし、適切な言語活動を設定した単元づくりは各学年でしっかり定着してきている。しかし、学年間の系統性や年間を見通して、どの単元でどういう見方・考え方を働かせ、どんな言語活動を設定していくかにはまだ課題が見られる。また、豊かにかかわり合うために大切な「言葉」の質や量の広がりも、各学年で単発なものになってしまい、確実に児童に身に付いていない状況である。6年間を見通した計画的な語彙指導を行い、より言語活動の充実を図っていく必要がある。令和4年度に作成した言語活動システムをもとに、今年度はそれぞれの領域で重複や偏りがないように意識しながらよりよい授業を目指し、児童の学力向上につなげていく。そして、仲間に受容されることで、自分の考えに共感してもらうなど自分のよさに目を向けられるように支援していきたい。

今年度の目標

主体的・対話的で深い学びを実現し、確かな言語能力を育てていく授業づくりを行う。

目標を実現するための具体的行動プラン

Table with 2 columns: Upper semester (e.g., Deepening learning through dialogue) and Lower semester (e.g., Reviewing and restructuring learning).

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: Focus areas (e.g., Human rights education) and Specific measures (e.g., Moral education and human rights education).

豊かな心に関わる本校の状況

日頃から児童が基本的な生活習慣を身に付け、気持ちのよい学校生活を送ることができるよう、挨拶・安全な廊下歩行についての取り組みを行っている。年間を通して呼びかけているが、児童全体を見ると十分に達成できているとはいえず、今後も継続して取り組む必要がある。また、年間計画に基づいて、たてわり活動を行っている。他学年との交流を通して、発達段階に応じた関わり方や互いを認め合う気持ちが育ってきている。人権週間では「子どもの社会的スキル 横浜プログラム(YP)」を活用し、「自分づくり」～他者のよさを見いだす内容の活動を全学年を通じて行っている。この活動は、人間関係づくり・自分や友達の良さの発見などにつながる活動となっている。また、日常の教育活動においては、意見交流や認め合う活動を取り入れ、自尊感情が高められるような取り組みを行っている。これらの活動を今後も継続することにより、一人ひとりが大切にされ、自分に自信をもって生活をしていけるのではないかと考えている。教職員の人権教育研修としては、Y-Pをもとに、児童の自己肯定感や困り感をデータ化し、ほかの教職員と話し合っ、多方向からの児童の分析をする研修を行い、多様な価値観を認め合う意識を高めてきた。継続して教員の人権感覚・意識の向上を図っていく。

今年度の目標

「自分づくり」の活動を通して、自他を認め合い、心豊かな子どもを育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

Table with 2 columns: Upper semester (e.g., Confirming and practicing basic life habits) and Lower semester (e.g., Continuing to practice and habituate).

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: Focus areas (e.g., Health and safety education) and Specific measures (e.g., Physical education and disaster drills).

健やかな体に関わる本校の状況

本校では、多くの子どもが休み時間には外遊びをしている。外ではボール遊びや鬼あそび、冬になると縄跳びをする子どももいてそれぞれが休み時間に運動できることを楽しみにしている。しかし声をかけないと中にいる子どもがいたり、外に出て遊んでいる児童の遊び方を見ていると、いろいろな遊びをするというよりは、同じ遊びをしていることが多かったりする。市の平均に比べ、朝食の摂取率は同等であるが、時々食べない、毎日食べていない子どもが10%程度いる。また、子どもによっての運動の経験の差が大きくなってきている。特に投げる動きの経験が少ない子どもが多い。・避難訓練を月に一度実施し、非常時に落ち着いて行動できるように想定し行動している。地震、火災、不審者対応、そして近隣火災の想定で行い、放送を聞いて避難経路を判断できるようにしている。全体的に避難訓練にしっかりと取り組むことができる。・感染症対策をしながらの学校生活が四年目をむかえて、子どもたちも手洗いうがい、手指消毒などの行動が生活の一部になってきている。マスクについては体育の時に外す経験を経てきている。・令和4年度は学校保健委員会で「自分で防ぐことのできる怪我を減らそう」をテーマに、教室でできる簡単なストレッチを行ったり、怪我がおきやすい場面を考えることができた。各クラスでめあてをたてて一年間取り組むことができた。その結果、気を付けることができたという振り返りが挙がった一方で、継続的に取り組むことが難しかったという振り返りも挙がった。

今年度の目標

体力アップにむけて継続的に取り組む中で、子どもたちが対話を通して体を動かすことの楽しさを感じられることを目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

Table with 2 columns: Upper semester (e.g., Knowing physical fitness and confirming content) and Lower semester (e.g., Publishing results and reviewing activities).